

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

新時代の洛友会

洛友会会長

松本 紘 (昭40年卒)



洛友会のみなさま、春陽の候、いかがお過ごしでしょうか。

この度、長尾真先生の後任として洛友会会長を務めさせていただくこととなりました松本紘です。昭和40年（1965年）の電子工学科卒業です。副会長、幹事団、各支部の役員の皆様や事務局の助けをお借りして、伝統ある洛友会の活動に貢献してまいりたいと思います。

昨年、今年と新型コロナウイルスの感染が全国的に拡がりを見せ、皆さまもコロナ以前とは異なる

る生活を余儀なくされておられると思います。在宅で活動される機会が増え、友人知人や同僚先輩後輩らとの対面会話や対面交流は減る一方、オンラインでの会議や情報交換などが増えたことでしょう。私の場合には、会議にはZoomなどを使いますが、知人や友人と話をする場合はやはり電話の方を使っています。その方が、情が伝わるような気がするからです。

機を狂わせて、外線につながるかという悪知恵を先輩たちから教えてもらったことなどを懐かしく思い出します。子供のころには電話機自体が生活の場ではあまり見かけなかったのですが、学生時代には公衆電話が町の中でどんどん増えました。そのうち自動車電話なるものが出現し、携帯電話があつというまに生活の中に浸透しましたね。電話に限らず生活の中で電気、電子、情報技術が大きな社会インフラを支えています。もちろん、洛友会の会員の皆様の貢献も多大なものであると思います。

電気系教室の卒業生が中心の洛友会会員の皆様も、卒業後さまざまな道に進まれたことでしょう。ぜひ、会報へご寄稿をしていただき、会員相互に人生を振り返り、貴重な体験や教訓などを語ってほしいものです。私は何となく電子工学に入学しましたが、私が二回生の折（昭和37年・1962年）にユーリイ・ガガーリンが京大を訪れました。ガガーリンが吉田参道を埋め尽くした中を通り抜けたとき、群衆の後ろで飛び上がった垣間見た人類最初の宇宙飛行士は小柄でとても血色の良かったことを今でも思い出します。そのガガーリンの影響を受けたのか、宇宙と関係する研究室に興味を持ち、前田憲一教授の研究室（前田・

大林研）に入れてもらいました。そこでは、前田先生を筆頭に素晴らしい先生方に恵まれました。ガガーリンと言えば、この原稿を書いている3月9日は、ガガーリンの生誕日です。彼が宇宙へ飛び立つ際、いかに勇気を振り絞って「バイエーハリー」（さあ、行こう！）と言ったのかは想像に難くありません。それを実感したのが、総長時代にウクライナへ出張した折に見たポストーク1号でした。計器類以外には何も無い、球形の窮屈な宇宙船でした。そのころソ連は、盛んに犬をロケットで打ち上げていましたが、生還する犬は半分くらいだったそうです。にもかかわらず、よくぞこんな宇宙船で飛び立ち、脱出用シュートで帰還したものだと感じました。私は片目が不自由なので、あこがれの宇宙飛行士は目指すことは諦めていましたが、のちになって宇宙科学の業績ということで、ガガーリンの名を冠した「ガガーリンメダル」をいただいた時にはうれしく思いました。

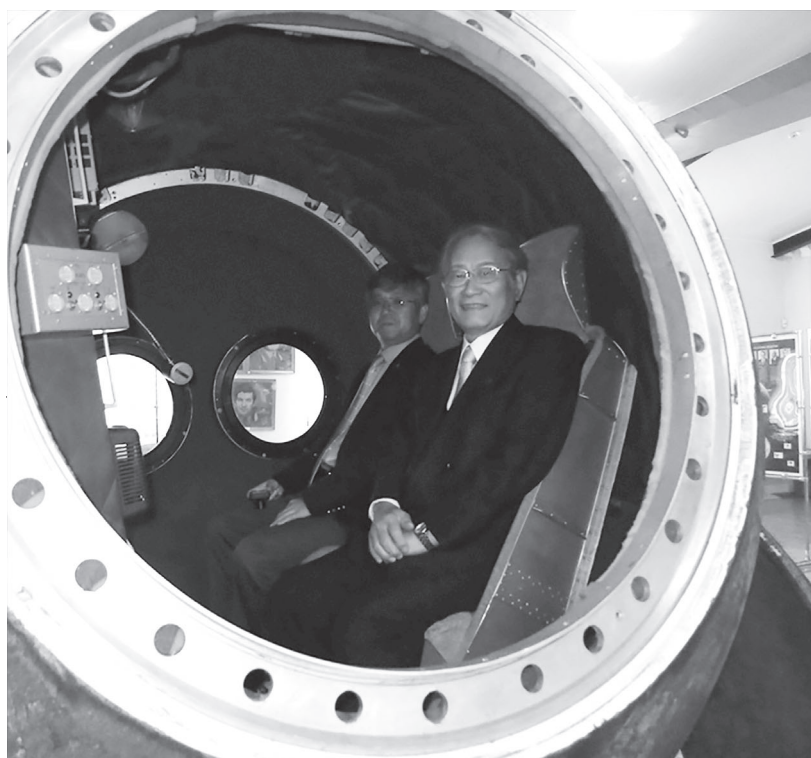
電気電子工学はマックスウェルたちによってその基盤が作られましたが、私は多くの研究者・技術者の中では、ニコラ・テスラが好きです。彼は変人と言われましたが、素晴らしい発想の持ち主で、素晴らしい電磁気学や自動制御理論を基礎に、次々と時代の先取りをするアイデアを出して時代の先端を走り抜けた偉人だと尊敬しています。

20世紀の電気電子工学の発展は目覚ましくその対象は広範囲に及ぶようになりました。無線、有線分野や電子計算機関連、電子材料、新エネルギー関連を問わず、洛友会の会員の皆様もあらゆる分野で活躍の事と思います。現代はインターネットや無線技術が発達し、私などは携帯電話やパソコンなしには生活できません。電話番号などは覚えていたはずのものがすっかり頭から抜け、すべて外部メモリ頼りです。携帯電話を落とすものなら何もできなくなっています。将来はどういう形で人間（脳）と情報機器が関係するのか楽しみです。一抹の不安を感じることもあります。

私が理事長を務めております理化学研究所（理研）では理事としてお迎えした美濃導彦先生（昭和53年・1978年、情報工学科卒業）にリードしていただき、人の気持ちや考えがわかって、そっと手助けしてくれる黒子のようなロボットの開発を目指しています。猛烈なスピードで進むICT、ロボット技術は電気電子工学者の魅力ある分野でしょう。私は宇宙プラズマの非線形挙動に関心があ

り、電波工学を中心にプラズマ波動の研究を進めてきました。また、将来の人類の宇宙活動や地球のエネルギー問題を考えて宇宙太陽発電もがらく研究対象としてきました。多くの恩師や後輩に恵まれ国際電波科学連合URSIなどで活動できました。URSIの会長を務めた折、国際事務局に残っている古い写真の中で長岡半太郎先生や、わが恩師、前田憲一先生の姿を発見したときは大変興奮し、激励を受けた気持ちになりました。最近では前田・大林研究室で直接指導を受けた木村磐根先生や加藤進先生などの恩師、先輩が他界され、大変さみしく感じています。しかし、同時に、若い後輩たちの活躍を目の当たりにする機会も増え、大いに期待しているこの頃です。

洛友会を舞台に織り成す世代を超えた交流が、相互に与える良い影響は計り知れません。会員のみなさま、この洛友会報を通じてご活躍ぶりや思い出などを寄稿してくださいさるよう、重ねてお願い申し上げます。



教室だより

2020年度電気系研究室交流野球大会閉幕

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、大会の開催が危ぶまれておりました。しかし、多くの方々からのご要望にお応えして、10月30日に1日限定特別ルールで野球大会を開催いたしました。

例年の野球大会では、月1回のペースで試合を行い、研究室対抗で順位を競い合います。一方で、

本年度の野球大会は1日限定のため、交流試合という形をとりました。交流試合当日は、参加して下さった小林研究室、和田研究室、松尾研究室、竹内研究室、土居研究室、藤田研究室、そして引原研究室の学生で無作為に4チームをつくって試合を行いました。本来敵同士である他研究室の学生と仲間になって野球をすることで、研究室同士の交流が深まったと思います。ステイホーム習慣により小さなコミュニケーションでの生活を強いられていた分、この交流試合は非常に有意義なものになりました。

また大会を開催するにあたり、コロナウイルス感染予防対策を徹底に行いました。参加学生には、

開催日の2週間前から健康チェックの実施、大会当日はアルコール消毒を励行することをはじめとして、さまざまな点でご協力して頂きました。無事に大会を終えることができたのは、このような協力のおかげであると考えております。

最後に、本年度は大会に関係するすべての皆様のご理解、ご協力があったからこそ、開催まで至ることができました。ここに感謝を申し上げます。また、本年度も洛友会からのご支援を承りました。深く御礼申し上げます。

引原研究室 M1 藤原直樹 記



交流野球大会後の記念撮影

教員の異動

昇任

(令和2年4月1日付)

・電気工学専攻

細江 陽平 講師(自動制御工学)

工学)

伊藤 陽介 講師(生体機能工学)

・学術情報メディアセンター

近藤 一晃 准教授(複合メディア)

(令和2年11月1日付)

・知能情報学専攻

村脇 有吾 講師(言語メディア)

着任

(令和2年4月1日付)

・電気工学専攻

持山 志宇 助教(先端電気システム論)

・電子工学専攻

吉田 昌宏 助教(光子量子電子工学)

(令和2年9月1日付)

・通信情報システム専攻

栗野 皓光 准教授(情報回路方式)

(令和2年12月1日付)

・電子工学専攻

衛藤 雄二郎 准教授(応用量子物性)

(令和3年3月1日付)

・生存圏研究所

西村 耕司 准教授(地球大気計測)

転出

(令和2年4月30日付)

・電子工学専攻

西 佑介 助教(半導体物性工学) 舞鶴高専

(令和2年9月30日付)

・電子工学専攻

田中 一 助教(半導体物性工学) 大阪大学

・通信情報システム専攻

西尾 理志 助教(伝送メディア) 東京工業大学

(令和3年3月31日付)

・通信情報システム専攻

新熊 亮一 准教授(知的通信網) 芝浦工業大学

(令和2年7月31日付)

・エネルギー理工学研究

岡田 浩之 准教授(高温プラズマ物性)

(令和3年3月31日付)

・光電子理工学教育研究センター

藤田 静雄 教授(先進電子材料)

・通信情報システム専攻

令和2年度卒業生の進学就職状況について(報告)

電気工学専攻長

雨宮 尚之

電子工学専攻長

川上 養一

通信情報システム専攻

大木 英司

電気電子工学科長

黒橋 禎夫

令和2年度の電気系教室卒業生の進学就職状況についてご報告いたします。まず最初に、今年度の就職に際しましても洛友会会員諸兄諸姉より例年と変わらぬ多大なご支援を賜りました結果、就職希望学生の就職が無事に決定致しましたことに關して心から御礼申し上げます。

令和2年度の電気電子工学科(学部)ならびに工学研究科電気工学専攻、同電子工学専攻および情報学研究科通信情報システム専攻(以上修士)の進学・就職状況を表に示しました。

まず、工学研究科電気工学専攻・電子工学専攻の進路・就職に關しましては、14名が博士後期課程に進学し、53名が就職いたしました。産業界全般に亘って比較的景気が安定している状況を反映して、電気系教室に対して非常に多くの企

業から以前と変わらぬ学校推薦枠を頂戴し、最終的には、ほぼ100%の就職率を得ることができました。就職先は、昨年と同様に、電気・通信関連企業に加えて、自動車・機械メーカーや重工関係企業の志望者が多い状況です。また、電力関係への学生の就職数も例年同様に推移しています。本年も、学校推薦を希望する学生は多く、約6割の学生が学校推薦枠により就職しています。ただ、学校推薦とはいえ事前に企業側で、学生が希望する部署との整合性を検討する例も多く見られました。また、表1には記載しておりませんが、博士後期課程については約半数が民間企業に就職、半数が大学の助教・博士研究員等に採用されており、博士後期課程学生に關しても企業も積極的に間口を拡げてくださっている印象です。博士後期課程については、修士から5年一貫の連携教育プログラムを生かして、早期から博士の学位を目指した研究に没頭し、国内外の学会で活躍する学生が増えています。情報学研究科通信情報システム専攻および電気電子工学科に關しまして、同様に多くの学校推薦枠を頂戴し、また見学会等OB・OGの方々の強力なご支援により、多くの学生が当初より希望する企業に就職しております。特に、

学部卒で就職をする学生のために、推薦枠を修士と独立に設けていただいている企業もあり、大変ありがたいと思いました。内訳をみますと、専攻の専門性から少し距離のある、ソフトウェア、金融、サービスプロバイダ等の業種にチャレンジする学生も見受けられますが、通信インフラ関係の企業と総合電機メーカーへの就職が今年も多くなっています。また、自動車関連企業に就職する学生が一層増えている印象です。自動運転等を実現するためハードウェアとソフトウェアの両方を理解する素地のある学生が求められているものと考えております。さらに半導体関連企業へも、従来よりはその数が減ってはいますが、一定数の学生が希望し就職を決めております。就職先分野にも産業界の状況が反映された形にはなっておりますが、卒業生はいずれも希望する企業に就職を決める事ができました。

以上、会員の皆様のご厚意とご配慮に心より感謝申し上げます。でございます。



令和2年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報システム)、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進学・就職先
進学	12 3 2		京都大学工学研究科電気系専攻博士後期課程 京都大学情報学研究科通信情報システム専攻博士後期課程 京都大学大学院人間環境学研究科博士後期課程 京都大学工学研究科電気系専攻修士課程 京都大学情報学研究科通信情報システム専攻修士課程 京都大学情報学研究科知能情報学専攻修士課程 京都大学情報学研究科システム科学専攻修士課程 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻修士課程 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻修士課程 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻修士課程 京都大学エネルギー科学研究科エネルギー理工学研究所修士課程 京都大学人間・環境学研究科共生人間学専攻修士課程 名古屋大学情報学研究科知能システム専攻修士課程 東京大学情報理工学系研究科電子情報学専攻修士課程
小計	17	110	
官公庁等		1	神戸市役所
電気関連	23	2	オムロン、オムロンヘルスケア、京セラ、島津製作所、ソニー、中央電子、東京エレクトロン、パナソニック、日立製作所、富士ゼロックス、富士通、三菱電機、村田製作所、ルネサスエレクトロニクス、ローム
通信・情報・放送	21	2	NTTソリューションズ、NTTデータ、NTTドコモ、NTT西日本、ぐるなび、KDDI、サイバーエージェント、JSOL、ソフトバンク、DeNA、日本テレビ放送網、楽天
電力・ガス	8		大阪ガス、関西電力、九州電力、中国電力、中部電力
機械・自動車・鉄鋼	14		アイシン精機、いすゞ自動車、オクマ、トヨタ自動車、豊田自動織機、豊田中央研究所、日立金属、日産自動車、本田技研工業、矢崎総業
運輸・鉄道	4		JR東海、NEXCO西日本、鉄道総合技術研究所、富士電機
化学・他製造業等	1		ニコン
金融・商社等	1	1	バンク・オブ・アメリカ、SMBC
その他	15	2	アクセンチュア、ウィル、京進、キリンホールディングス、ジェイテック、サイバーエージェント、ダイラムダ、チームラボ、ボストンコンサルティング、ヤフー、Huawei、RUTILEA、その他
小計	87	8	
研究生・帰国等	21	11	留年、帰国、休学、未定
計	125	129	

学位記授与式

令和3年3月24日、電気電子工学科の卒業生歓送会(洛友会との共催)が開催されました。みやこめっせにおける全学の卒業式に引き続き、電気総合館大講義室での学位記授与式が行われ、黒橋禎夫学科長より卒業生一人一人に対して学位記が手渡されました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、立食パーティーは行わず、代わりに長尾真前洛友会会長の書「切磋琢磨」を入れた記念のマグカップが贈呈されました。

名残惜しさのなか卒業生が巣立って行きました。



会員寄稿

毛鉤を使った釣りのすすめ

姫野 龍太郎

(昭和52年卒・東京支部)

私が最初にフライ・フィッシングを始めたのは今から十五、六年前、知り合いに誘われて始めた。しかし、その時道具は揃えたものの、ほとんどまともに取り組んではいなかった。六、七年前から時間的な余裕ができて取り組み直した。幸い関東にはフライとルアー専用の釣り場があちこちにあり、最初のうちはそこで釣っていた。そこはたくさん魚が放してあるので、それなりに釣れて楽しい。池の他に、河川に堰を作っている所も、自然の河川そのものを使っている場合あり、多様だ。

ところで、フライ・フィッシングと言われても、ほとんどの人は聞いたことも、見たこともないだろう。鳥の羽などで作ったフライ（毛鉤）を、少し太い釣り糸（フライラインと呼ぶ）の重さを利用して飛ばして釣る、釣り方の一つだ。普通は川魚が釣る対象で、ヤマメやイワナ、ニジマスなどを相手にする。

ルアーはルアーの重さで飛んでいくので、初めてでもすぐにコツを覚え、それなりに飛ばすことが

できる。これに対して、フライ・フィッシングでは、ラインの重さでフライを飛ばすので、練習しないと全く飛ばない。フライラインを鞭のように前後に振って、徐々にラインを伸ばしていったら、飛ばすのだ。はつきり言って、結構難しい。ラインが飛ぶようになって

も前後に振るときに竿にぶつかって絡んだり、草木に絡んだりする。最初のうちは、釣っている時間よりも、絡んだ糸をほどこいている時間の方が長かったりする。それなりに上手くなっても、後ろの木の枝に絡むことは良くあり、この時下手をすると、竿を折ってしまう。

もう一つ、フライ・フィッシングの必須要素であるフライ（毛鉤）は完成品を買って使うこともあるが、普通は自分で巻く。この自分で作るというところが手間だし、道具を一式買い、材量を用意するのに相当な出費がかかる。材料は一種類だけで巻くことは少なく、フライの用途・種類に合わせ、更に色違いが必要なので、何種類もの材量を用意することになる。ただ、自分で巻いたフライで釣れると、そのうれしさは格別だ。自分の作ったフライを魚が虫や小魚だと間違えて、食ってくれた訳だ。その瞬間のために、ひたすらフライを巻き、準備する。

釣れる釣れないを決める重要な

要素は二つ、フライを魚のいるところに、いかに自然に運ぶかということと、魚が餌だと間違うようなフライを用意することだ。

さて、養殖した魚を放してある釣り場（管理釣り場と呼ばれる）でそこそこ釣れるようになると、自然の河川で釣りたいくなる。自然の河川と言っても釣れる川は大抵

養殖した魚を放流していることが多い。海と違って川の魚は釣って持って帰ってしまうと、その分魚が減って、やがて全くなくなる。そのため、定期的に放流したり、キャッチ・アンド・リリース区間を設定して、持ち帰りを禁止しているところもある。キャッチ・アンド・リリースのところでは、大抵餌釣りは禁止で、疑似餌のルアーとフライだけが可能で、釣れても、すぐに針を外して逃がしてやる。この時、魚の傷が少なくなるように、返しをとった針を使う

ようになってくる。こういうところで生き残っている魚は、フライやルアーにかかる痛みをいすすということを学習するので、なかなか釣れなくなる。フライを流しても、ふん、そんなものには引かからないぞ、と言わんばかりに、知らん顔をされたり、避けられたりする。この野郎と思う。一方で、その年生まれた小さなヤマメなどは、さかんにフライを食

おうとする。五から十センチ位のヤマメだ。こちらそんな小魚を釣るつもりはないのだが、あまりに釣れないときには遊んで貰ったりもする。

自然河川の場合、魚の姿が見えることもあるが、見える魚はほとんど釣れない。始めたばかりの頃は、魚が見えないとやる気が起きず、無駄なエネルギーと時間を、釣れない魚相手に使ってしまう。さつさと釣れないと諦めて、違うところを試してみるのが賢い。こんな風に釣り人も学んでいく。

五年前から北海道に毎年二回から三回、それぞれ一週間ほど遠征するようになった。車を一人一台借りて、車中泊。食事は自炊したり、コンビニ弁当やカップ麺を利用。山に入るとヒグマの糞を見ることがあるが、ヒグマの糞が見つかるような所は魚が良く釣れる。そうかと思うと、町中の河川でも釣れるところがある。北海道は溪流釣りの人間には天国だと思う。

始めて北海道で釣りをしたとき、下流の川幅の広い、ゆっくりした流れの川に入った。そこで釣りをしていると、一緒に行った人の姿も見えなくなり、徐々に陽が傾いていった。静かで、自分が立てる音しか聞こえない。やがて日が沈み、満月が登ってきた。ゆったりとした時間が流れ、自分も自

然の一部になった気がした。使っている道具は違っていても、こうして生きる糧を求めて、自然の中で努力してきた、太古から続く人の営みを感じた。

実は学生時代に同級だった友人とたまたまフェイスブックで再会した所、彼も毛鉤を使った釣りをしていることが分かった。フライ・フィッシングはヨーロッパ発祥の釣り方だが、日本にも古くから独自の毛鉤を使った釣りがある。今はテンカラと呼ばれている。彼はそのテンカラの達人だった。彼に誘われて、四年前にテンカラの講習会に参加させて貰った。テンカラはフライ・フィッシングと共通点はあるが、結構違いもある。リールを使わず、竿の長さと同程度のラインを使う。フライ・フィッシングでは長く伸びたラインは水面に浮かばせているが（沈める場合もある）、テンカラではラインは空中で張った状態を保ち、道糸だけが水につかるようにする。流れが速い日本の山岳溪流に良く合った釣り方だ。テンカラの竿は柔らかく、ラインも軽いので、最初は戸惑い、まともに飛ばない。それでも何度か振っていると、少しずつコツが分かってきた。毛鉤の方はフライと同じなので、毛鉤巻きの実習では何人かの参加者の指導をさせて貰った。

この講習会での一番の収穫は、そこで多くの人と知り合えたことだ。講師をされている方々も、自分の技量を鼻にかける人はおらず、みなさん謙虚。初心者として参加されていた方とも、その後、毎年開催されている白山での講習会で再会し、楽しい時をご一緒させて頂いている。また、ここで知り合った播磨テンカラ会の方々は、何度か例会にお邪魔して再会、昨年は、とうとう私も播磨テンカラ会のメンバーにして頂いた。

このように、仕事や住まいの近くで知り合う友人の枠を超えて、遠くの、幅広い年齢層の方々と知り合え、友人ができた。LineやFacebookで日常的に情報交換しており、地理的に離れていることを気にする必要が無いことも、このような関係を後押ししてくれる。

毛鉤を使った釣りが楽しいのは、突き詰めると次の二点に要約される。
・魚が毛鉤をくわえるのが見える
毛鉤を流すと突然魚が出てきて、毛鉤をくわえて沈んでいく、そのようが見えるのだ。キャストする度に、来るぞ、来るぞ、とわくわくする。

・毛鉤は自作
釣れるところを夢見ながら自分で工夫して作るの、実際に釣れると心底うれしい。

どうです、始めて見ませんか？



鈴鹿サーキットと運転の楽しみ

辻 浩也

(平2年卒・中部支部)

昨今のコロナ禍で行動を制限しながら日々生活されていることと思います。コロナ禍対応では自動車での移動が推奨されるようになり(もちろんそもそも移動をしないのが原則ですが)運転好きの私としては、必要な移動はなるべく車にしてこの困難な時期の中で少しでも楽しみを見つけてようとしています。

私は乗り物好きで、小学校から自転車で走ることに喜びを感じ、高校時代は参考書よりバイク雑誌を読みふけて受験で苦勞し、大学時代は自動車部に入って車やバイクに浸った学生生活と充実した人生を送ってきました。私の高校・大学時代は車もバイクもレース等の技術をフィードバックした性能向上が大々的にうたわれ大きな盛り上がりになっていて、そういう車にあこがれを持って

た時期もありました。

大学卒業後は自動車関連の部品メーカーに就職し地元に戻ってきました。学生時代にラリーやジムカーナ等のモータースポーツをやってきましたが、唯一縁がなかったのはサーキット走行やレースでした。これは費用も高く別世界の「見るもの」という感覚でした。ところが地元に戻ったことで、最も身近なモータースポーツの場所が縁の無かったレースの本場である鈴鹿サーキットになりました。ご存じの方も多いと思いますが、鈴鹿サーキットは1987年から日本でのF1レースを開催してきており、多くのF1ドライバーから最もチャレンジングなコースと絶賛される評価の高いサーキットです。F1や夏の8耐が開催される国際レーシングコース、ジムカーナ等で使う南コースのほかに遊園地、キャンプ場、ホテル等があり、私にとっては自宅から車で20分と身近な存在です。

子供のころ遊園地に連れて行ってもらったことをスタートに、耐久レースやF1観戦、走行会、競技参戦と50年近くの間、かわり方は変わりましたがずっと鈴鹿サーキットにお世話になってきました。ここで、そんな鈴鹿サーキットとのかかわりを思い返しなが

紹介したいと思います。

①八の字型サーキット

鈴鹿サーキットはホンダの創業者本田宗一郎さんが、世界と戦える車を作るために鈴鹿製作所の近くに場所をさがして作った施設です。完成は1962年、まだ高速道路は登場しておらず、自動車やオートバイレースのコースは未舗装だった時代に本格的な舗装のサーキットが誕生しました。レイアウトは世界的にも珍しい立体交差をもつ八の字型、もとの丘陵地の地形を生かしてコースレイアウトした関係で、アップダウンがあつた一つ見通しが悪いのは少し難点。別の場所を見なければ勾配のある路をてくてく歩いて移動する必要があります。観戦がよい運動になるのはいいところかもしれません。

②遊園地

サーキットの入り口から国際レーシングコースまでの間は遊園地になっています。車やバイク関連のアトラクションが多いですが、絶叫マシンのようなものはありません。大人には少し物足りないかもしれませんが、子供たちが小学生の頃はよく通いました。自分が小学生のころに国際レーシングコースを走るカートを運転した記憶があります。その頃はエンジンの爆音とスピード感が印象に残って

いますが、久しぶりに乗っているとコースの広さに対して十分安全速度なのがよくわかりました。レースが行われるひろびろとしたコースを走ることが特別な経験として記憶に残っているのが自分の運転への興味の原点だったのかもしれません。

③自転車レース

数年前から会社の仲間と8時間エンデューロ(耐久)レースに出るようになりました。5〜6名でチームを組んで交代で走ります。自転車レースのときは自動車の逆回りに走ります。自分の足でペダルを踏んで走っていると見通しの悪さの原因になっていたコースの高低差が予想以上に足にこたえます。メインスタンドのあるストレートは車だと下りですが、自転車では永遠に続く厳しい上り坂に様変わり、上り切ったところには目の前が暗くなりそうです。よろよろと走っている私の横をトップ選手たちはあたかも平坦路を走っているかのように素晴らしいスピードで登っていきます。エンジン性能の差に驚くばかりです。

生活の変化にともない鈴鹿サーキットとの付き合い方は少しずつ変わってきましたが、自分のそもそもの根っこである運転好きに関しては、チャレンジクラブという



自分の車でサーキットを走る仕組みをつかってチャレンジし今も変わらず続けています。50歳をだいぶ前に超えて若いころに比べて運動神経が衰えていることは如実に感じますが、1セクション30分を走ったあとの爽快感は変わりません。一緒に走っている車の動きを参考にハンドルやブレーキ、アクセル操作を少しずつ改良して周回タイムを削る作業は、うまくいかないことが多いですが、だからこそ楽しいものです。昨年は久しぶりに2秒ほどタイムを短縮して自己満足に浸ることができました。

最近ではスマホのGPS機能を使ってラップタイムやコースの間タイム測定ができるフリーソフトがあり、あまりお金をかけずに細かいデータが測定できるようになりました。これからも新しい機器をつかうための頭のリフレッシュと運動機能の退化防止のためにできる限り続けていきたいと思っています。

宇治・京都での四年間

石原 賢司

(昭33年卒・九州支部)

賞罰なしの平凡な八十数年を越える歳月を、漫然と過ごしてきた。

中島みゆきの「時代」の歌詞「そんな時代もあったよね」に触発されて、宇治・京都で過ごした学生の四年間を記憶をたよりに綴ります。

中学三年の時、膝関節炎で二年間休学し、高校の三年間は体育実技を全くやらずに、二十歳で昭和二十九年(一九五四年)京都へやって来た。

その頃の出来事に、ビキニ水爆実験によるまぐろ漁船福竜丸事件(一九五四年)、ソ連世界初の人工衛星打ち上げ成功(一九五七年)などがあった。また太平洋戦争後の復興期で「もはや戦後ではない(一九五六年 経済白書)」といわれた時代である。

宇治時代

教養学部時代の第一年目は宇治分校。工学部四組(以下T4と記す)の一員となった。人員構成は約半数強が電気科、あと半数が建築、鉱山、冶金科などの人達であった。

六月に新築の宇治寮に入った。場所は、萬福寺の東南の山手であり、分校まで二十分程で行けた。二棟、寮生八十名、二人部屋であった。当時、下宿代は一疊千円といわれていたが、部屋代百円は貧乏

学生には、魅力的であった。付近は原野で、民家も商店もなかった。食事はおもに分校内の学生食堂を利用したが、七輪と木炭で自炊する寮生もいた。ここの生活に慣れたころ、自炊生の炭を無断拝借し、洗面器でカレーを作り、一度ならず数人で食べた。後年、社会人になり寮生活をしていた時、洗面器カレーを提供したが、歓迎されなかった。

空腹の虫をしずめるため、食パンにあやしげなマーガリンをつけてよく食べた。ある寮生がパン屋と交渉し、パンの予約販売を始めた。その着想と生活力のたくましさに感心しながら、二十円の食パンに、その寮生の名前を密かにつけてかぶりついた。

宇治らしいアルバイトをした。茶の苗木植えと、成木の消毒で労賃は一時間三十三円、したがって三時間で百円である。戦争末期に宇治の高級茶畑は、食用の芋畑へと転換させられていたのを、元に戻す作業だったようだ。現在この付近は各種施設や、住宅街になってしまいい茶畑は無い。

十一月には、各部対抗新人ボートレースと分校学園祭が、ほぼ同時に開催された。

ボート部員の級友から、参加しないかと誘われた。足が悪くて運動は駄目だということだったが、舵取

り(コックス)だから問題ないとの話にのった。彼の勧誘でT4からは私以外に、三人の漕ぎ手が参加した。工学部からは漕ぎ手四人乗りのボート(ナックルフォア)二艘出場であった。

さてそれから、三・四週間の新人合宿訓練が、大津瀬田川で始まった。私はコックスとしての号令のかけ方から教わり、色々失敗もあったが徐々に慣れていった。寒さを感じる頃であり、数人連れだつて夕食後、毛布をマント代わりに頭からかぶり、大津市街に出かけ楽しんだ。

コックスは、ボート上では肉体的には楽であり、また号令一下全員が従ってくれるのに満足していた。唯一つの不満は、朝の軽いジョギングがあり、私には重いランニングであった。

対抗レースは僅差で準優勝だった。後でわがボートは、蛇行していたといわれた。これは、漕ぎ手優秀、コックス最低だったせいだ。コックスは体重が軽いほどよいと言われているが、数キロ増やして瀬田川を去った。

われわれを誘ってくれた級友は、八十歳をすぎてもボートを漕いでいた。自由で楽しい機会を与えてくれた彼には、心からありがとうと言いたい。

分校学園祭は、ボート合宿の合

間に宇治へ帰った折に、合唱練習に顔を出し、音痴ぶりを音楽家の級友指揮者に指摘されたりした。その時の歌は今でもハーモニカで吹いて懐かしむことがある。

T4はサルトル作の演劇「墓場なき死者」を上演するため、演技者・道具方の人たちが忙しく準備していた。これには参加せず、劇本番に筋書きもよく知らないのに、厚かましく照明を担当し、舞台を赤や青色で照らした。

T4の出し物は最優秀賞をもらい、皆で歓呼の声を上げるのには、ちゃっかり加わった。これも級友の皆様のお陰と感謝する。

京都時代

二回生になり、短い下宿生活の後、吉田寮の先輩学生による選考に合格し、ここに住むこととなった。

「京大吉田寮 二〇一九年発行」の内容紹介文の一部を抜粋すると

一九一三年竣工、現存する日本最古の学生寮。学生自治寮として長い歴史を持ち、建築物としても価値ある吉田寮。吉田寮の魅力について寮生に尋ねると、てんでばらばらな答えが返ってくる。「家賃が安い。友達ができる。規則がゆるい。上下関係がない。趣味に没頭できる」

とある。私がいた頃のそれは日本最古の学生寮ではないが、その他

はそのままあてはまる。

当時は北、中、南寮の木造二階建て三棟、新入寮生は二人部屋、次年度からは個室、総勢約百五十名であった。中央に事務室があり、おばちゃんと慕われたやさしい女性職員、くち髭の立派な玄關番いや受付係などがいた。外からの電話があると、この髭さんがマイクで呼び出し、寮生がダイヤル式黒電話へと駆けつけた。

旧制高等学校の風習のなごりのストームや、寮雨もあった。しかし一般に皆紳士的であり、先輩学生を交えての議論、雑談に明け暮れた。

二回生の時、運動場へ数分で行けるので、体育の授業はほぼ皆勤した。ソフトボール、バレーボールなどで遊んでいればよく、体育で高得点をもらったのは生涯この時だけである。

足が悪くてもできるものとして、弓道をみつけ入部した。

西部講堂近くの弓道場、といっても建物はなく野天に弓を射る立台を並べたものだった。師範や先輩部員の指導をうけ、徐々に強い弓もひけるようになった。半年ほどたち、東大との定期戦に出かけた。

相手は、白の道着に袴姿、われらは濃青のTシャツにズボン。

前日の練習で少しよい成績をだし、また部員も少なかったため、団体戦の選手になった。わが意に

反し、矢のほうの的はずすのに専念し、恥ずかしい結果だけを残した。今にして思えば、腕力は強化したが、土台になる足腰が弱かったのも一因だと反省している。

三回生になり、電気科の授業が始まりしばらく経ったとき、咳が頻発するようになり受診した。肺浸潤との診断をうけ、すぐに故郷の高松市近郊の村へ帰り療養生活となった。二か月ほどで咳も出なくなり、治癒したとのご宣託。この病名は今では殆ど死語に近く、また誤診ではなかったかと、勝手に解釈している。

過去に二年休学しており、和裁の内職で仕送りをしてきている母の苦勞を思い、留年を避けるため、九月の前期試験を受けようと決心した。

夏休み中であり、ある級友に頼んだら、講義ノートを我が家に郵送してくれた。本人も目を通したいだろうに、一度に全ノートを貸してくれた級友に感激した。複写機などない時代であり、完全治癒に自信もなく、寝たままで意味もわからず書きなぐり筆写をした。その時は旧態依然たるノート講義を恨んだが、逆にノート講義だから、勉強範囲は少なくて助かったとも考えられる。この友には今でも感謝、感謝である。もうひとつ問題があった。グ

ループでやる電気実験が不足していた。八月下旬に実験を一人でやるのを許してもらった。手引書を頼りに、実験を一種類やって報告書を提出した。担当の先生が面接評価してくれた。自信もなくお粗末だったため「…である、と言うべきところを、君はよく…と思うとか、…と考えられるとか言うが、文学者になったほうがいいのじゃないか」とのお言葉をいただいた。穴に入りたいとはこのことか。後日談だが、同様の境遇の級友が私の前例によって、お情け合格したと聞き隠れ貢献者になった。

吉田寮でやったことのひとつに、某女子大学寮生との読書会がある。男女合わせて約二十名が参加して、月に一回程度集まり、あらかじめ決めていた小説類の読後感を披露、議論する場であった。

青や紅色のまじめな読書論だけでなく、若い男女の集まりであり、サロンの雰囲気も多分にあった。読書会以外に、音楽喫茶で大声をだし、何度も注意されたり、観劇、ピクニックなどを楽しんだ。むしろこちらのほうがこの会の目的だったかもしれない。

いくつかのペアもできていたが、目出度く完結した組はない。四回生最後の卒論は、お世話になった研究室にいた先輩大学院生の書いたものの一部を拝借し、独創性なし

を提出して、京都に別れをつげた。

これで宇治・京都でのひとりよがりの思い出話を終わります。もつとも言いかけたのは、実に多くの方々にお世話になって、四年間を無事に終えられたことです。ありがとうございます。

支部だより

北海道支部総会報告

令和2年度北海道支部総会については、去る1月下旬から2月上旬にかけて、書面形式で開催いたしました。

例年は5、6月に集合開催しておりましたが、ご存じのとおり新型コロナウイルスの影響を鑑みて、開催時期・方法について慎重に見計らってまいりました。北海道支部では支部総会が唯一のイベントとなっているため、年度内での集合開催が可能となる状況を祈念し、ギリギリまで状況を見定めておりましたが、年度内に状況が大きく改善することが見込めないため、他支部の状況も参考にさせていただき、書面形式で実施しております。

書面において、前年度会計報告、今年度予算案等について各支部会員に確認および承認いただきました。さらに、次年度について集合開催が

困難となる場合のWeb形式での開催を見据え、支部会員に対応可能なWeb会議システム等についてアンケートを行っております。

幹事といしましては、次年度以降は、新型コロナウイルスへの対応が整い、集合開催ができることを祈念しておりますが、叶わない場合は、アンケートでご要望いただいたWeb形式で懇親の時間を設けさせていただく等、支部活動の活性化について、考えていきたいと考えております。

以上、簡単ではありますが、令和2年度北海道支部総会の報告とさせていただきます。

佐野大輝(平16年卒) 記

訃報

昭22	松本	尚一	3・1・3
昭25	浴	厚夫	3・3・16
昭29	染山	孝雄	2・12・6
昭29	平井	一正	3・2・15
昭30	鶴井	信勝	2・11・9
昭30	西川	禪一	3・2・15
昭32	岡野	義男	2・4・4
昭36	吉田	滋	2・7・24
昭36	横山	弘道	2・11・28
昭40	浅野	勝昭	2・5・2
昭43	岡崎	文明	2・12
昭43	甲斐	正樹	1・11・11
昭47	前川	公男	3・2・11
平10	後藤	由貴	2・4・8

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。